

第3号様式

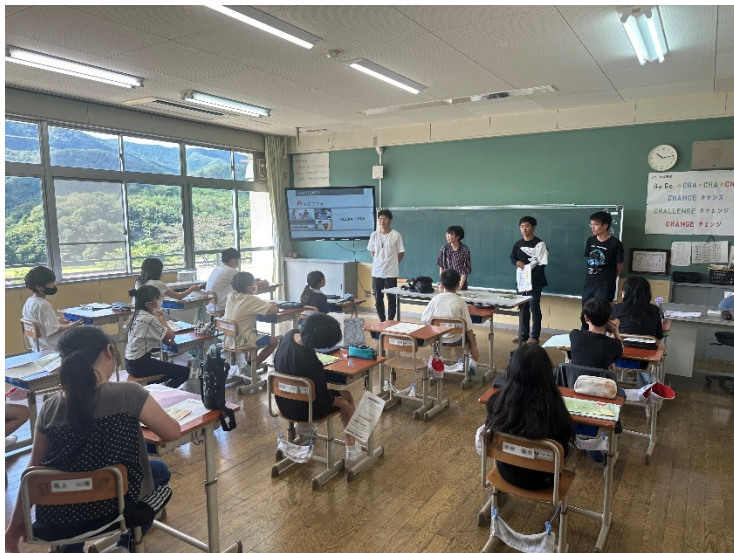
令和6年度 京都府立大学地域貢献型特別研究（府大 ACTR）成果概要報告書

分類 番号	4	取組 名称	学校・地域連携にもとづく夜久野地域の文化遺産の活用研究
研究代表者所属・職名：文学部・教授		氏名： 菱田 哲郎	
研究担当者： 京都府立大学（諫早直人、福井 亘、佐々木尚子、小滝篤夫、仲林篤史（敬称略）） 外部分担者・協力者（松本学博氏、鷲田紀子氏）			
主な連携機関 （所在市町村、機関（部署）名）			
京都府福知山市文化・スポーツ振興課など			
【研究活動の要約】			
夜久野末窯跡群に対するこれまでの調査の結果、北近畿最大の須恵器窯跡群であることが明確となり、その成立の背景としてこの地域に展開する後期古墳が捉えられることが明らかになっている。こうした成果を広く普及するため、地域や学校との連携をとって、成果の活用を検討した。結果として、夜久野学園小学校との連携による5年生の授業、また市民向けのシンポジウムの実施という形で、わかりやすく市民に成果を伝える活動をおこなった。			
【研究活動の成果】			
昨年度に研究成果をとりまとめた『夜久野の後期古墳と末窯跡群』の内容を広く普及する方法を検討した。まず、福知山市立夜久野町化石・郷土資料館の郷土部門の展示リニューアルを完成させ、これをもとに子どもたちへの普及活動を地元の夜久野学園とともに計画した。7月にはオンラインで小学校の教室と大学の研究室をつないで、学習の目標を伝え、それから学生たちによる資料の事前調査と教材作成をおこない、9月10日11日の2日間にわたって夜久野学園小学校5年生を対象に、ワークショップを実施した。資料館での展示解説、長者森古墳でのワークショップ（1日目）、夜久野学園における高内鎌谷遺跡の解説、教室における須恵器の実物を用いた実習（2日目）をおこなった。子どもたちの感想では、須恵器の触ったことが印象に残ったようである。 年度末には市民向けのシンポジウムを夜久野ふれあいプラザで実施し、自然科学分野を含めた4本の報告とシンポジウムのほか、歴史学科と森林科学科の学生たちによるポスター発表、仲林共同研究員による古墳の三次元体験を実施した。約100名の参加があり、北近畿最大の須恵器窯跡群である夜久野末窯跡群の重要性が多く市民に理解されたのではないかと考える。			
【研究成果の還元】			
令和7年3月9日（日）シンポジウム「夜久野末窯跡群と古代の環境」（発表者 菱田哲郎、諫早直人、小滝篤夫、佐々木尚子）於 夜久野町ふれあいプラザ 主催 京都府立大学文学部歴史学科 共催 福知山市教育委員会 京都府立大学文学部歴史学科編『夜久野末窯跡群と古代の環境 資料集』、2025年3月9日、京都府立大学文学部歴史学科			
【お問い合わせ先】		文学部（研究科） 考古学研究室 准教授・諫早直人 Tel: 075-703-5274 E-mail: isahaya@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）」



ワークショップ 1 日目
長者森古墳の見学



ワークショップ 2 日目



シンポジウム「夜久野末窯跡群と古代の環境」於 夜久野町ふれあいプラザ

